

(様式)

普及項目	資源管理
漁業種類等	採貝業
対象魚類	アサリ
対象海域	熊本有明海

アサリ生息状況調査(横島地区)

県北広域本部水産課・永田 大生

【背景・目的】

横島地区は、平成 26 年(2014 年)と平成 27 年(2015 年)を除いた直近 10 年間の秋季のアサリ生息状況調査で、2 分貝から 3 分貝のアサリが 100~800 個体/m²と比較的高い生息量が確認されるものの、翌年の漁獲に繋がっていない状況にある。昨年度の冬季の月 1 回程度の生息量調査の結果から、冬季の減耗対策が必要であると考えられた。そこで、アサリの資源管理に係る取組みの一助とするため、同漁場において通年の生息状況を実施した。なお、今年度は、昨年度に引き続き、同漁場における夏季の生息状況を調査し、夏季の生息状況を把握することを目的とした。

【普及の内容・特徴】

以下のアサリ生息状況調査を実施した。

月日：令和 2 年(2020 年)6 月 24 日、7 月 23 日、8 月 18 日、9 月 29 日、10 月 16 日

場所：横島東漁場

参加者：横島漁協職員 1~2 名、水産課 1~2 名

方法：漁場内の 6 定点において、25cm×25cm の枠取りを行い、2・3・4・5 分のゆり目で選別後、ゆり目に残ったアサリを計数し生息量を把握した。

※林(1993)参照：(各ゆり目の殻長分布)2 分:20-24mm 3 分:21-31mm 4 分:27-38mm 5 分:32-40mm

結果：全定点のアサリの平均生息量は、調査開始時の 6 月は 556 個体/m²、終了時の 10 月は 48 個体/m²である約 9 割が減耗していた。特に 6 月から 7 月に 6 月比で約 6 割、8 月から 10 月に 8 月比で約 8 割の大きな減耗を確認した。大きさ別では、2 分から 3 分貝の減耗割合が大きかった。

【成果・活用】

横島地先における夏季の生息状況調査の結果、夏季に計 2 回の減耗時期を確認した。昨年度の調査結果も踏まえると、当漁場では年間を通し、夏季と冬季に大きな減耗時期があることを把握した。今後、これらの結果を基に、当地区でのアサリ保護・増殖方法、減耗時期の対策について漁協・漁業関係者らと協議・検討し、資源管理手法を確立していく。

【達成度自己評価】

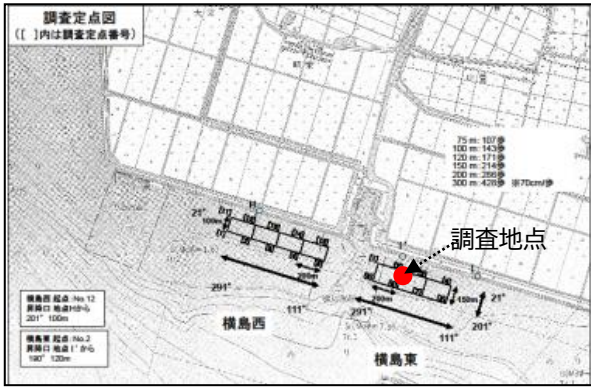
3：おおむね達成できたが取組に改善を要する等の課題も見られた (51%~75%)

参考文献

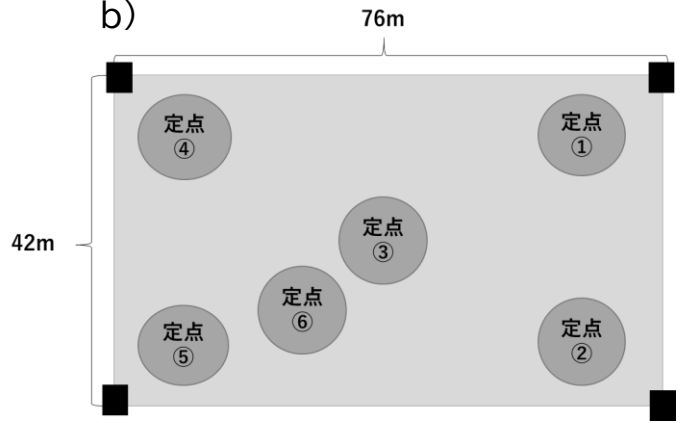
林 宗徳：有明海におけるアサリの成長. 福岡水技報 第 1 号 151-154(1993).

(様式)

a)



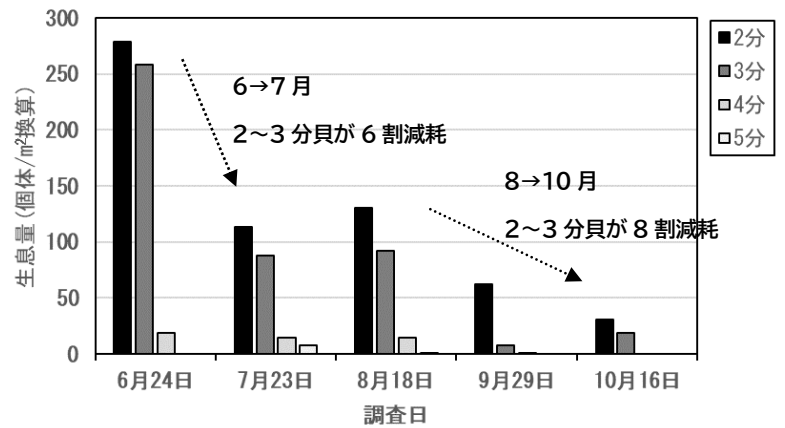
b)



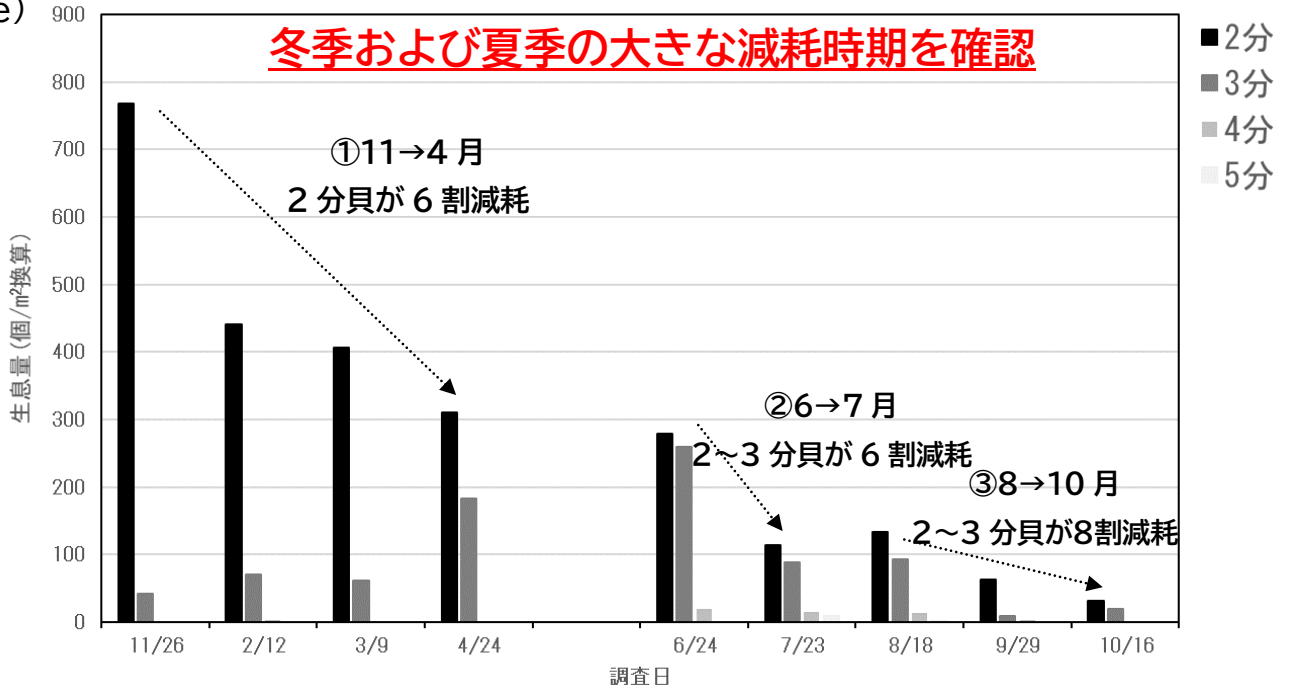
c)



d)



e)



a) 調査地点 (●で示した場所が調査地点)、b) 調査定点 (各定点に目印として杭を設置)、c) 生息状況調査の様子、d) 全定点の大きさ別の生息量の推移、e) 年間を通した大きさ別の生息量の推移